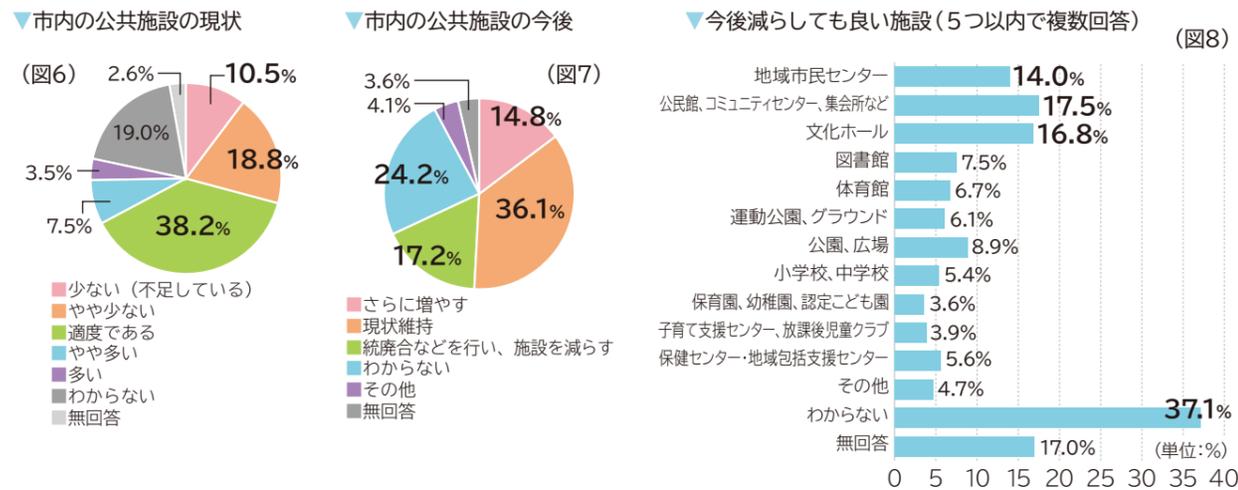


公共施設のあり方はさらなる検討が必要

公共施設の現状については、「適度である」(38.2%)が最も多く、次いで「やや少ない」(18.8%)、「少ない(不足している)」(10.5%)となっています。(図6)

公共施設の今後については、「現状維持」(36.1%)が最も多く、「増やす」が14.8%、「減らす」が17.2%、「わからない」は24.2%となっています。(図7)

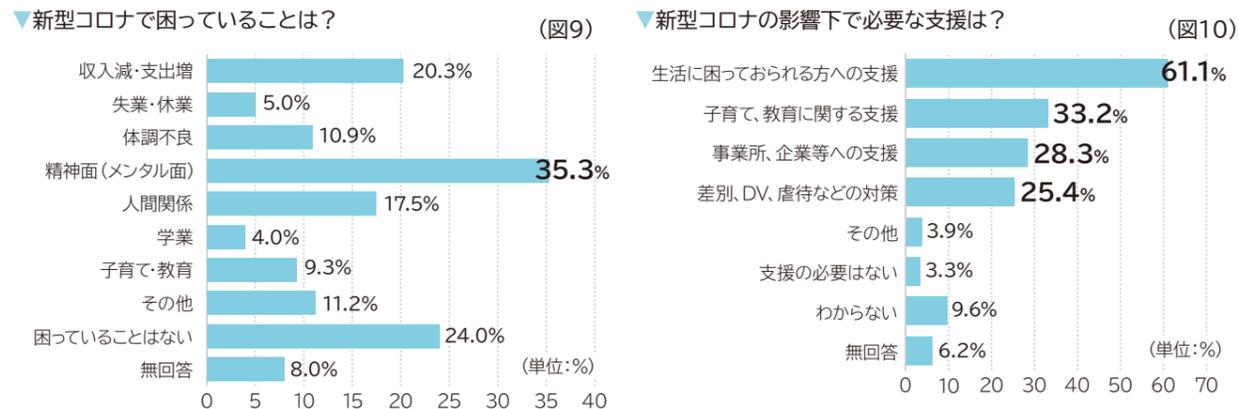
今後減らしても良いと思う施設は、「公民館、コミュニティセンター、集会所など」(17.5%)が最も多く、次いで「文化ホール」(16.8%)、「地域市民センター」(14.0%)となっていますが、「わからない」と回答されている方が37.1%と最も多くの割合を占めており、今後の公共施設のあり方については、さらなる検討が必要となります。(図8)



コロナで受けた影響、必要な支援は

新型コロナウイルス感染症で困っていることは、全体および世代別では「精神面(メンタル面)」(35.3%)が最も多くなっています。(図9)職業別では、自営業で「収入減・支出増」(56.4%)が、また学生で「学業」(57.7%)が最も多くなっています。

また、必要な支援は、「生活に困っておられる方への支援」(61.1%)が最も多く、次いで「子育て、教育に関する支援」(33.2%)、「事業所、企業等への支援」(28.3%)、「差別、DV、虐待などの対策」(25.4%)となっています。(図10)



小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示しているため、百分比の合計値が100.0%にならない場合があります。

問合せ 秘書広報課 広報広聴係
TEL 69-2101 FAX 63-4619

市民の皆様からいただいたご意見や評価を公表します ～第5回 市政に関する意識調査の結果～

市では、今後の市政運営の基礎資料として活用するため、市政についての意識調査を毎年実施しています。今回は3,000人の方にお申し込み、1,288人(回答率42.9%)の方からご回答をいただきました。

ご協力をいただきました皆様、お忙しい中ご回答いただきありがとうございます。

今回の調査結果について、その一部をお知らせします。

なお、全ての結果をまとめた調査報告書につきましては、市ホームページ、または地域市民センターおよび図書館で閲覧いただけます。

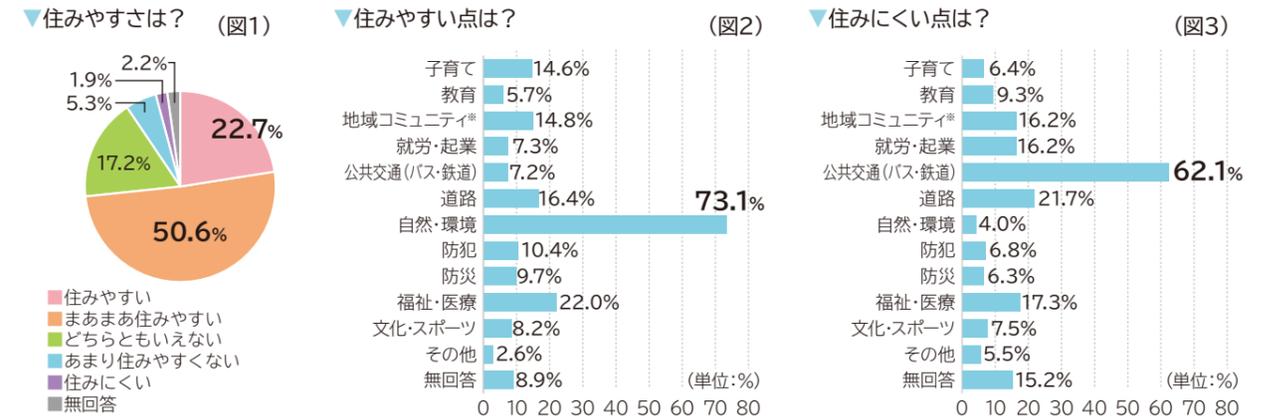
調査対象 市内在住の個人3,000人
調査期間 令和3年7月20日(火)～令和3年8月9日(月)
調査方法 郵送配布・郵送回収またはインターネット回答
調査項目 ●市民意識
(住みやすさ、幸福度、定住意向、市政への関心等)
●公共施設(公共施設の現状や今後のあり方について)
●情報発信(市の情報の入手状況、広報紙の配布方法)
●新型コロナウイルス感染症関連
(困っていること、必要な支援)

市ホームページ

住みやすさは「自然」、住みにくさは「公共交通」

甲賀市の住みやすさを尋ねました。「住みやすい」(22.7%)と、「まあまあ住みやすい」(50.6%)と感じられている方の合計は73.3%でした。(図1)

住みやすい点は、「自然・環境」が突出して多い結果でした。(図2)一方、住みにくい点は、昨年度までの結果と同じく「公共交通(バス・鉄道)」が突出して多い結果となっており、これは滋賀県世論調査でも同様の結果となっています。(図3)



*区・自治会・自治振興会など

「健康」と「家族関係」が幸福度のバロメーター

現在の暮らしに幸せを感じるかについては、「そう感じる」(26.3%)と「どちらかといえばそう感じる」(46.4%)と回答された方の合計は72.7%でした。(図4)

幸せを感じることは「健康」が57.5%、「家族関係」が55.9%、「自由な時間、充実した余暇」44.0%で、世代別では、60歳以上で「健康」が、50歳以下では「家族関係」が1位となっています。(図5)

